

# めぐみ厚生センター恵友会 会報

第 306号

めぐみ厚生センター恵友会

法人本部 0952-25-2797

めぐみ園 0952-34-7722

富士学園 0952-63-0107

ウイズ富士 0952-51-0063

発行人 副島 勉

郵便振替 めぐみ厚生センター恵友会  
事務局 〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584

口座番号： 01770-6-12389

(めぐみ園内) : tel 0952-34-7722



## グリーフ・ケアについて

恵友会 副会長

福島 龍一



「グリーフ・ケア」という言葉をご存知でしょうか。日本では、「悲願回復」と訳されています。グリーフは、とても深い悲しみを指す言葉で、それは死別を経験した人が、しらすらに亡くなった人を思い慕う気持ちを中心に湧き起こる感情であり、また一方では死別という現実に対応して、この窮地をなんとかかしようと努力を試みているなんとも不安定な状態のことを指しています。その様な悲しみの中でもがき苦しんでいる方々に寄り添い、援助することをグリーフ・ケアと言います。

グリーフ・ケアを実践するに、特別な訓練や資格が必要なわけではありませんが、ただ一つ「傾聴」については、しっかりとその方法を把握しておく必要があると思います。傾聴は、ただ単に相手の話を聞くということではなく、積極的に関心を持って注意深く相手の話を聞き取ることです。話をされている方の現在の心の状況はどうかを、理解していくことにあります。ですから、相手の方が話をされている時には、一切言葉を挟み込むことはしませんし、ましてや話の腰を折るなどの行為は行なってはいけません。

悲しみを心の中に抱えている方の多くは、自分の話を聞いてくれる人がいること、自分のことを話せる場所があること、ただそれだけでも大きな救いになるものです。その場所や、話を聞いてくれる方に何か特別なアドバイスや元気をもらいたいとは思っていません。「話すことができる」ことだけでも、本当に癒されていくものです。

死別の悲しみの中にいる方を見ると、ついつい励ましてしまいがちです。「頑張ってね」と声をかけてしまいそうになります。しかし、この「頑張ってね」ほど辛く重い言葉はありません。相手は自分のことを気遣って言葉をかけてくれていてと判っててはいても、「これ以上、何を頑張るのだろう」という気持ちになっていくものです。悲しみをこらえ、涙をこらえ、これからの人生をどう生きていこうかと思悩、それでも立ち上がらねばと精一杯頑張っている状況にあるのに、これ以上何を頑張るのだろう。そんな気持ちになってしまうものです。励まそうと思ってかけた言葉が、逆にその人を追い込んでしまっていることがあるということを知っていただきたいと思います。

そのために、同じ悲しみを経験した人によるグリーフ・ケア・サロンは、その様な方々の大きな励みになります。悲しみを共有している、自分の気持ちを理解してくれるという安心感が大きな励みとなります。

私は、妻を6年前に大腸癌でなくしました。そしてその1年半後に「りんどうの会（ガン遺族の会佐賀）」というグリーフ・ケア・サロンを立ち上げました。現在は10名ほどの会員の方々と活動を続けています。対象はガンで親しい方を亡くされた遺族の方です。悲しみを抱えて一人で嘆き苦しむのではなく、仲間と一緒に悲しみを乗り越えて生きていきたいと思っています。



◎新入会ありがとうございます

平成一九年四月三十日現在  
敬称略

田代裕明

◎会費納入ありがとうございます

平成一九年四月三十日現在  
敬称略

多良勝利 山口勝正夫妻 納富勇次

十時忠秀・やよい、岩田寛剛、堤 敦子

中島和子、江頭嘉子、村岡 洋、池田治夫

西村紀夫 九州食品 大崎茶舗 松藤範幸

松本次雄 内川商事 楠 満 石動丸販売店

桑原敏幸 栗林久美子、武久好光、白浜みゆき

丸秀醬油 小野原誠 畑瀬智幸 大屋庫二

中島直樹 中村瑞穂 田中國代、中村昌平

溝内和弘 堤 宏隆、山口貞雄、田代裕明

栗林康之・三枝子、諫山輝子、吉原岩雄

原口 弘・久美・恭典・弘一朗 永瀬早苗

メグミルク八谷 永瀬皮膚科 池田醬油

池田譲一、重松正巳、中溝豆腐、市丸俊文

めぐみ園家族会三十一名、山崎幸子

小瀬八千代、江川秀子、山口洋子、徳永尚子

瀬戸口昭子、金武妙子、吉田幸子、釘尾末子

岡 梅子、光岡悦子、市丸眞子、鶴池咲智子

川内丸邦子、泉美知江、本吉ミヨ子

北島政商店

◎ご寄付ありがとうございます

ごさいました。

平成一九年四月三十日現在  
敬称略

松本次雄、石動丸販売店

栗林久美子、岩田寛剛、堤 敦子

十時忠秀、中島和子、市丸俊文

メグミルク八谷、永瀬早苗

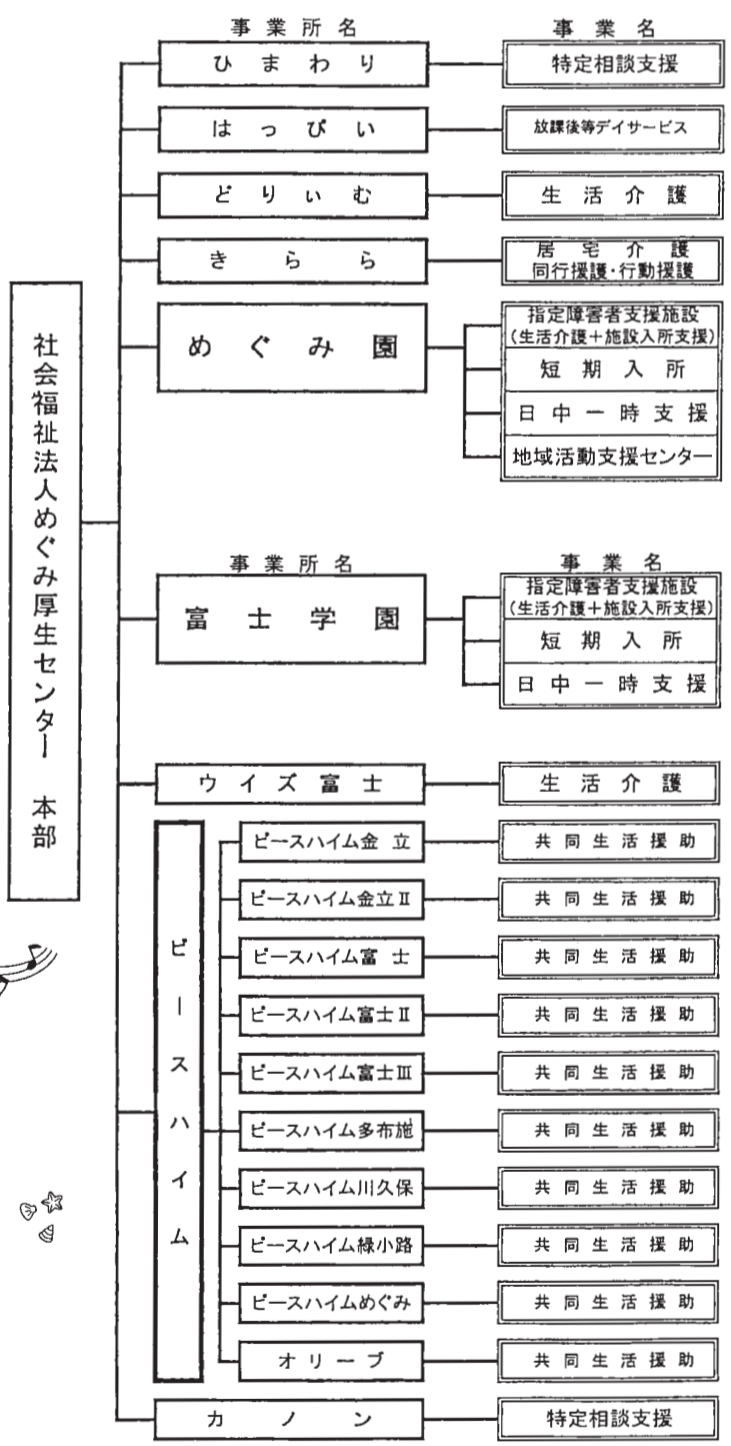
永瀬皮膚科



平成29年度 厚生センター概要



新年度がスタートし心機一転の中、各事業所の特色を活かした事業計画が予定されております



社会福祉法人めぐみ厚生センター 本部

恵友会視察研修のお知らせ



ご希望の方は5月31日までに事務局までご連絡下さい!

日時: 2017年6月6日(火)

場所: エフピコ愛パック佐賀工場  
神崎市神崎町尾崎 3032-1

時間: 10時~11時30分 昼食をとり帰ります

【エフピコ愛佐賀工場について】

2007年に民間の営利法人で初となる就労継続支援A型を広島県に設立し、現在は全国18ヶ所の事業で計370名の障がいのある従業員が就労されています。

今回の佐賀工場も「就労継続支援A型 エフピコ愛パック株式会社 佐賀工場」の中で、簡易食器容器製造とリサイクルの2つの工場を見学させていただきます。



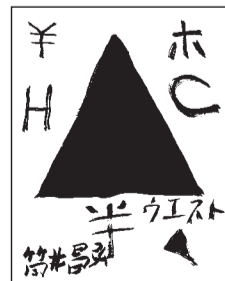
《利用者の方の作品》



井手口佳紀さんの作品



川棚敏広さんの「桜」



発想豊かな筒井昌弘さんの作品



恵友会 趣旨

【趣旨】  
恵友会は、後述の会則に掲げる目標をもって昭和56年、後援会として発足しめぐみ厚生センターの創立者の意を受け継ぐために、そして現代が求める開かれた施設、地域に密着した施設づくりに目を向け、めぐみ厚生センターをサポートします。

【会則】(抜粋)  
【第3条】  
本会は社会福祉法人めぐみ厚生センターの事業に賛同し、その運営、発展及び、利用者の福祉向上を援助することを目的とする。

【第4条】  
本会は前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、利用者との心のふれあい活動
- 2、めぐみ厚生センターに属する施設に於ける奉仕活動
- 3、めぐみ厚生センターの運営並びに施設設備に対する経済活動的援助
- 4、その他、本会の目的達成に必要な事業

【第5条】  
本会の会員は、知的障害児者を正しく理解し本会の目的に賛同する者をもって構成する。

☆ゆりかごから天国まで☆  
☆共に生きる ~ live together ~ ☆  
☆愛する者たち、互いに愛し合ひましよう☆